

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 4070501541, 医療法人社団天翠会).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

Empty box for business unit input.

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty box for external evaluation input.

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 公益社団法人福岡県介護福祉士会).

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (radio buttons), and Achievement Details (numbered list).

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様が家庭的な雰囲気自分らしく生活ができるように、毎日の朝礼時の一番最初にホームの理念を全員で唱和し、一日のスタートをしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市民センター等で行われる各種イベントや地域のお祭りなどに積極的に関わり、入居者様の作品展示やイベントへの参加に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	9月に「人権週間」の企画として行われた市民センターでの市民講座で「認知症をともに生きる」というテーマで発表し、近隣の高齢者の方々からも「とても役に立った」と大変喜ばれました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の頻度で地域の民生委員さんや市民センターの館長さん、地域包括支援センター等々の方々とのグループホームの現況、取り組み状況、研修会など報告し様々な貴重なご意見を頂きながらサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行う地域運営推進会議には必ず地域包括支援センターの職員さんに出席して頂き、ホームの現状や取組を報告するとともに、様々な認知症高齢者に対する施策やサービス向上に繋がる情報提供をいただき、運営に生かしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	10月には外部講師による身体拘束の研修会を実施、また毎月の定例会や3か月に一度の身体拘束廃止委員会等で身体拘束をしないケアに取り組んでいます。フロアの玄関は日中は施錠せず、夜間のみ(17時～翌9時)施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	10月に外部講師による虐待防止についての研修会を実施、また毎月の定例会や6か月に一度開催する(身体拘束)虐待防止委員会で現状の確認、検討を行い、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の定例研修会の中で管理者中心に権利擁護についての研修等や、ユニット会議において話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には重要事項を必ず確認しながら家族様の不安や疑問点を尋ね、納得のいく説明に努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ホームからご家族様に対して「みどり便り」や預り金の出入金のお知らせ等を行うと共に、ご家族様の面会時には必ず職員も面談し、ご家族様のご意見、ご要望や質問等にも対応しています。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例研修会の時には職員や担当部門のからの意見や提案を検討したり、ユニット会議でも自由に意見を発表できる体制にしています。またリーダー会議で、管理者、事務長同席で業務の問題点の検討などを行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人より、9月から勤怠・人事・給与システムの導入となって、業務実績や勤務状況、労働時間などを職員が簡単に操作、確認できるようになり、無駄がなく、スマートな運営が可能となりました。職場環境の整備に繋がっています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用については性別や年齢等の理由により採用対象から排除することはありません。また、職員に対しては本人のスキルや能力、長所や個性を大事にしてその力を職場内で発揮できるような仕組みや自己研鑽、更なるスキルアップのための研修等にも積極的に参加できるように配慮しています。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月の定例研修会等の機会を活用して、認知症高齢者の人権についての研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質の向上を図る為に、法人内外の研修会の開催や資格取得の為に研修を受ける機会を設け、人材育成に努めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内部では各事業所合同による研修会を開催するとともに、積極的に外部の研修会にも参加させ、他の同業者職員との交流も図られるようにして、サービスの向上に努めています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人ひとりが利用者様とコミュニケーションを図り、密な関係作りは出来ています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が困っていること、不安なこと、またご意見、要望等をしっかり傾聴してご納得がいくまで焦らず時間をかけての対応に努めています。また、各専門職、担当者が連携を行い、ご家族との関係作りに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様が「その時」一番何に困っているのかをしっかりと傾聴して、他のサービス利用も含めた対応に心掛けています。また入所後約1週間は個別で生活状況の記録を取り、必要とする支援の参考にしています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者との関係は介護する側、される側という立場をできるだけなくし、一緒に生活をしている者同士である関係作り、施設環境になるよう努めています。本人が出来ることは自力でできるよう声掛けにも工夫しています。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族が疎遠な状態にならないように、事ある毎にこまめに報告、連絡を取りながら、気軽に面会が出来るように、受け入れ態勢も整えるように努めています。携帯電話をお持ちの入居者様もあり、自由にやり取りも出来るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の住み慣れた場所や友人、知人の関係を大切にして毎日の会話、コミュニケーションの中で話題にしたりしながら支援しています。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や利用者同士の関係性をしっかり把握して、一人孤立せず、毎日が楽しく生活出来るように世話好きな入居者様を促したり、職員から積極的に声かけしたり、コミュニケーションが取れるように努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良等により、医療機関への入院によるサービス利用の終了後も、必要に応じて本人・家族の経過をお聴きしながら今後の相談やアドバイスなど支援に心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の思い、気持ちを無視せず、職員からけっして無理強いせず、できるだけ利用者様本位の生活支援に努めています。ご本人の希望や意向がつかめない場合はご家族様の協力をいただきながら支援しています。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこれまでの生活環境やお仕事、様々な経験、生活歴、馴染みの暮らし等を職員が日頃から会話の中で情報を聞き取ることで、普段のホームでの暮らしに役立たせています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の特技や趣味などをお聴きしながら、これまでの普段の生活の中での生活状況を把握する事で、本人の有する能力、残存機能を活用していけるように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やご家族様の面会の折りにお聴きした意見や希望、そしてご本人の希望や意向を参考にしながら現状に即した介護計画を作成しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の本人の様子やケアについては介護記録、看護記録に記入し、特記事項については必ず申し送りノートで共有し、日々のケア実践や介護計画に活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の日々の状況や家族の状況、その時々ニーズにはその日の決められたサービス、業務に捉われず、臨機応変に対応するように心がけています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	3年前からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、それまで地域の各種ボランティアの受入れも未だに再開までには至っておりませんが、地域の祭りや市民センターで行うイベント、ふれあい祭り等には利用者様の作品を展示して頂いたりして地域とのつながりを大切にしています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医は本人や家族のそれまでの関係性やつながりを考慮して、嘱託医や協力医に限らず、希望に沿うように納得のいく支援をしています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常業務の中で介護職員が利用者様の状態把握で気が付いた事や、変わった事、気がついたことは速やかに看護職員へ連絡、報告を行い、適切な受診や看護を受けられるように常に心掛けています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入退院に関しては本人やご家族様の希望、要望を第一に考え、医療機関を選定して安心して治療が受けられる体勢作りに努めるとともに、その病院の地域連携室等の職員と密な連携を保ちながら情報交換や相談、退院へ向けての支援を行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される時に必ず重度化した場合や終末期の対応についてしっかり本人、家族に説明し、本人やご家族の希望も確認したうえで、ホームとして出来る事、出来ない事を十分に説明して地域の関係諸機関の情報提供や共有に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月実施している定例研修会の中で、「緊急時の対応」についても必ず研修を行い、職員の応急手当、初期対応、救急搬送のスムーズな対応方法を事例発表や対応マニュアルを使いいつでもだれでも対応が出来る様に訓練を行っています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の立ち合いの下、火災や地震、水害等の災害時を想定して避難誘導訓練を行っています。また、BCP(事業継続計画)に基づき地域運営推進会議等で説明、協力体制等についてご協力をお願いしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの生活歴やご家族様からお話をお聴きしながらその方の人格を尊重し、自尊心に配慮した対応に心がけています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様一人ひとりのと密なコミュニケーションを図り、本人も希望や思いを話しやすい環境作りに努めています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れ(基本)はあるが、臨機応変にその日、その時の利用者様の状況に合わせた支援を行っています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様自身で衣類を選択できる方はご自身でその日の服を選んで頂いています。ご自分で選ぶことが出来ない方には同じ衣類(服)を選ばないように職員が配慮しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご自身で召し上がることが出来る方はその方のペースでご本人の好きなように召し上がって頂いています。又、片付けについては出来る方に無理のないように行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	デイサービスと併設の為、給食は委託業者が担当し、栄養については管理栄養士がバランスの良いメニューで提供しています。利用者様一人ひとりの状況により、食事形態も食べやすいようにし、嚥下状態に配慮しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には必ず口腔ケアを実施しています。ご自分では完全に行えない利用者に対しては一部介助で口腔内の清潔保持に努めています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本、排泄はトイレで行って頂いています。ADL状態が悪く、難しい方でも日中はトイレ誘導しています。ズボン等の上げ下げ動作などご自分で出来る方はご利用者にお任せし、出来ないところのみ支援を行っています。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取量の把握に努め、運動の実施も行っています。便秘の状況把握(無排便〇日目)も毎日行っており、看護師とも連携して個別の対応ができるように取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人、週に3回は計画的に入浴を行っています。また、その日のご本人の状況に合わせてシャワー浴や清拭などその都度対応しています。(例えば便失禁した時など)		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日によって利用者様の状態も異なる為、申し送りにも気配りししながら、ソファなどを利用して休息の援助を行っています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食前薬、食後薬、眠前薬等々、また、点眼薬、貼付薬など、その目的や用法に沿って誤薬などの間違いのないように服薬支援を行い、症状の変化等にも注意を払うように努めています。特に、不眠、不穏、下痢など状況に合わせて医師の指示の下内服の調整を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に長年の生活の中から得意なこと好きなこと、嗜好品、楽しみなどをお尋ねして、その方がご家庭で生活している時と同じように役割を持ち、生き甲斐や喜びに繋がるように支援しています。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時など、戸外散歩や花作り、そしてドライブなどで普段行けない所へ出かけたり、状況に応じた支援を行っています。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人の使える現金は施設管理とさせて頂いていますが、本人の希望で買いたいものや移動販売等で購入希望があれば使用できるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居時に携帯電話を持参されている入居者もあり、また、遠方のご家族からの手紙のやり取りができるように支援しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には季節折々のお花を飾ったり、その季節にマッチした音楽を流したり、その折々の生活感や、季節が感じられるような工夫をしています。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングはいつでも自由に利用できるようにして、気の合った利用者様同士で談笑したり、テレビの視聴も特に制限等はありません。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドとテレビ台以外は普段ご自宅でお使いになられていた馴染みある物品を自由に持ち込み、使いやすいように設置して居心地よく過ごせるように工夫しています。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホームであるので、家庭的な雰囲気気を大切にしながら、ご本人のしたい事は自由に行って頂いており、あまり規制などはせず、自立した生活が送れるように支援しています。		